

4月30日は、

ヴェトナム戦争終結32周年

忘却してよいのか

志向・強者への隷従性・暴力嗜好性の異常な強さが示されるだろう。

この日、『毎日』に記事なし。
なぜ私がこれの問題視するか。

27日の安倍首相との会談で、ブッシュ大統領が「われわれの仕事は過去から教訓を学ぶことであり、国を前に導くことである」と発言したことを知らされたからだ。

安倍首相が「従軍慰安婦問題」について、「人間として首相として心から同情し、そういう状況になったことは申し訳ない」と述べたことに、大統領は「率直な謝罪表明を評価する」と応じたという。このあとに先の言葉が続くのだ。

「狭義の強制性はなかった」、「強制連行はなかった」「政府や軍部の関与はなかった」との発言を撤回するのでなければ、文科省の検定教科書から「従軍慰安婦」の記述を削除した誤りを認めるのでなければ、元「従軍慰安婦」に首相として直接謝罪し政府として明確に補償するのでなければ、「同情する」「申し訳ない」という言葉は、アメリカ国内のマスメディアと議会からの厳しい責任追及を沈静させるための、当座逃れの当座捌きの口裏合せにすぎない。これが看過できない事の一つ。

「過去から教訓を学ぶこと」が一国の政治指導者の責務だと殊勝な言辞を吐くブッシュだが、アフガニスタンへの「報復戦争」もウソで始めた「イラク戦争」も、あのヴェトナム侵略戦争から何一つ教訓を学んでいないことを証明しているのだ。暗愚な指導者の強欲と妄信と暴力依存症ほど人類世界と地球社会に害悪・悲惨をもたらすものはない。イラク戦争を「理解・支援」すると言い、「日本は常にアメリカとともにある」と言う安倍首相を「学力テスト」すれば、知性・良心・感性・想像力・創造性の異常な貧弱さ、偏狭・専制

1945年に独立を宣言したヴェトナム民主共和国に、殖民地回復を狙うフランスが戦争をしかけ、1954年これにヴェトナム人は勝利。フランスに代ってアメリカが1963年に「顧問団」の名で1万5千人の米軍を南部に派遣、64年に「トンキン湾事件」をデッチあげて北爆開始。翌年、佐藤首相は支持を表明。増派を重ねて68年10月には54万人を派遣。徴兵制による355万の兵員の15%。

ヴェトナム侵略戦争で米兵約6万人、ヴェトナム人約300万人が死亡。米軍撤布の枯葉剤で約300万人のヴェトナム人被害者。

1975年4月30日、サイゴンの傀儡政権が全面降伏して終結。この28年後の03年3月20日開始のイラク戦争で、今年増派していま約17万人の米兵。この4月末で米兵死者3300人以上、イラク人は推定最大65万人死亡。

アメリカ独立宣言を肯定して独立宣言に引用したヴェトナム民主共和国に対するアメリカの大義名分は、「自由と民主主義」だった。第2次大戦後、少なくとも21の国・地域——ほとんどはアジア・中東・ラテンアメリカなど貧困国——に武力行使してきたアメリカは、常に「自由と民主主義」を守るためと釈明してきた。その実は、アメリカの巨大資本と多国籍企業の権益を守ることではないののだ。

「過去から教訓を学ぶ」事なきアメリカとの軍事同盟を「かけがえのない」「ゆるぎない」と称する安倍首相もまた、国民主権・基本的人権・戦争放棄の日本国憲法下の「戦後レジームからの脱却」をブッシュに誓うのである。三百代言で暴力指向の政府は亡国へ走る。

2007・4・30

須田 稔